教育研究発表　オンライン型分科会②
第 12 部会　生活科　発表要項

五泉市立大蒲原小学校
松井　雅裕（平成２４年度）

気付きの質を高める児童の育成　～表現・交流活動を工夫して～

１　主題設定の理由

以前１年生を担任している時の「わたしのあさがお」の実践で，児童は「葉の形はハートみたい」「葉の色は緑色」「葉が大きかった」など，見たことを記録することはできていた。一方で，成長を過程で捉えて記録する姿はあまり見られなかった。このことから，観察を通して，気付いたことを表現はしているが，変化や成長の様子を捉えるところまでは至らなかったということができる。つまり，気付きを質的に高めるところまでは至っていなかったのである。これは，対象へのかかわりが弱かったこと，気付いたことや考えたことなどを他者と伝え合う機会をほとんどとらなかったことが原因であると考えた。

学習指導要領では，「これまでの生活科の学習課題として，学習活動が体験だけで終わり，活動や体験を通して得られた気付きを質的に高める指導が十分に行われていないという指摘があった」と述べられている。また，「活動を繰り返したり対象との関わりを深めたりする活動や体験の充実こそが，気付きの質を高めていくことにつながる」とも述べられている。さらに，思考力・判断力・表現力等において，「一人一人の気付きなどが表現されることによって確かになり，交流することで共有され，そのことをきっかけとして新たな気付きが生まれたり，様々な気付きが関連付けられたりする」ことが，気付きの質が高まった姿としている。これを受け，対象と深く関わり，交流を通して気付きの質を高める児童を育てたいと考えた。

そこで，繰り返し動植物と関わる息の長い学習活動を設定し，表現したり交流したりする学習活動を加えることで，気付きの質を高める生活科授業を実践することとした。そのために，次の手立てを講じ，目指す児童の姿に迫っていく。まずは，一人一人にあさがおへのメッセージを表現させ，その価値付けを行う。そして，友達とのかかわりを通して意図的に気付きを交流させる。これにより，児童は単元を通してあさがおへの愛着を持ち，気付きの質を高めることができると考えた。

２　研究仮説

あさがおへの愛着を持たせるためにメッセージを書かせ，その価値付けを行い，友達とのかかわりを通して意図的に気付きを交流させれば，児童は気付きの質を高めることができるだろう。

３　研究の内容と方法

（１）研究の内容

①　あさがおへのメッセージとその価値付け

あさがおと深く関わり愛着を持たせるために，観察のたびにあさがおへのメッセージを書く欄をワークシートに設ける。あさがおが児童にとって大切な存在であることを感じさせるために，児童のメッセージや気付きに対して必ずコメントを書き，児童の思いや気付きを価値付けていく。

②　児童の思いや願いを引き出す問いかけ

共有させたい気付きを明確にし，意図的に交流場面を設定する。交流では気付きを伝え合う中で，児童の感情を揺さぶったり，知識や経験を引き出したりする問いかけや問い返しを行う。それにより，あさがおにより深く関わり，自分の思いや願いを表出させることで，気付きの質を高めていく。

（２）研究方法

令和４年度大蒲原小学校１年１組 10 名（男子７名，女子３名）を対象とし，抽出児Ａ児，Ｂ児のワークシートの記述や発言等から，仮説を検証する。春探しや学校探検などの活動から，Ａ児は，気付いたことや思ったことを自分の言葉で表現することが苦手な児童である。Ｂ児は，飽きやすく意欲を継続して持ち続けるのが難しい児童である。

（３）目指す児童の姿

メッセージを積み重ねることであさがおへの愛着を深め，交流活動による気付きの共有を通して，気付きの質を高める姿である。普段の世話活動，交流場面での発言やあさがおへの手紙，振り返りの記述において，気付きの質を高める姿が見られた児童とする。

（４）本単元で気付きの質を高めた姿

お互いの気付きを共有することで，新たな気付きを得る姿。また，知識や生活経験と関連付けて思いや願いを表現しようとする姿。

4　研究の実際～「わたしのあさがお」～

はじめに，種の観察を行った。一粒の種をじっくり見ることで，これからあさがおを植える，育てることへの興味を持たせた。

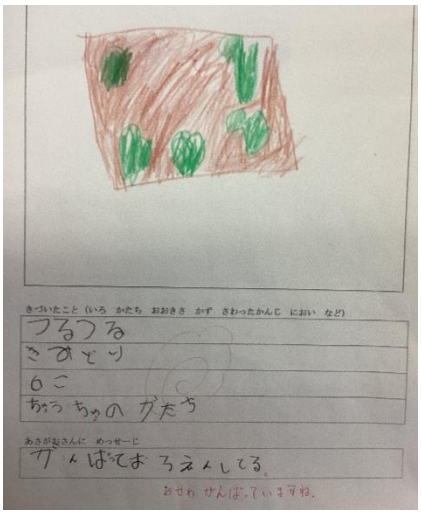
芽が出てきたら，タブレットを活用した。タブレットで写真を撮り，それを見ながらスケッチや気付いたことなどをワークシートに記述させた。ワークシートの一番下には，観察のたびにあさがおへのメッセージを記述するようにした。ワークシートには必ずコメントを書き，児童の思いや気付きに価値付けを行った。また，芽が出てきた時やつるが伸び始めた時など，自分のあさがおと友達のあさがおを見比べて，意図的に気付いたことを交流させた。

種の採取が終わったらあさがおへ手紙を書き，最後はつるを使ってリース作りをし，単元全体の振り返りをした。

①　あさがおへのメッセージとその価値付け

ワークシートは，①スケッチ②気付いたこと③メッセージの３つを書かせた。スケッチは，タブレットで撮った写真を見ながら描かせた。気付いたことは，あさがおの成長に合わせて視点を示して記述させた。メッセージは，観察のたびにワークシートの最後に記述させた。メッセージには必ずコメントを書き，児童の思いや気付きを価値付けした。

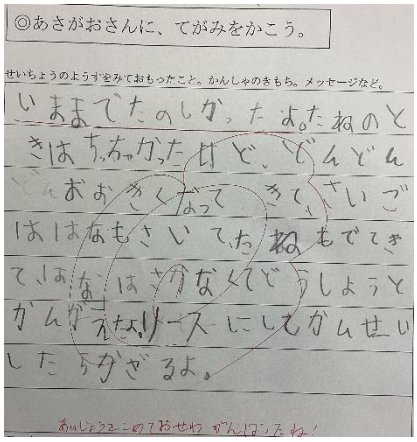
A 児のワークシート



A 児のメッセージ
・いっぱい水をあげるよ（5/19 種を植えた）
→水やりがんばろうね
・がんばって，応援してる（6/3 芽が出た）
→お世話がんばっていますね
・もうちょっとだよ，がんばってね（6/30 つぼみができた）
→花がさきそうだね。何色かな？
・すごくきれいだよ（7/12 花が咲いた）
→愛情込めて水やりしていましたね

成長に合わせて，あさがおに寄り添った記述が見られる。

A児のあさがおへの手紙



今まで楽しかったよ。種の時は小っちゃかったけど，どんどん大きくなってきて，最後は花も咲いてたね。種もでてきて，花は咲かなくてどうしようと考えたよ。リースにして完成したら飾るよ。

↓

あさがおの成長をロイロノートの写真をもとに振り返っている。花が咲かなくてどうしようと考えたところ，リースができたら飾るところに，あさがおへの愛着が表れている。世話活動が楽しかったと感じている。

抽出児以外のあさがおへの手紙

・今までありがとう。大好きだよ。よく育ったね。出会った時はうれしかったよ。種を取れてうれしいよ。つるでリースを作るね。
・前は小さかったけど，どんどん大きくなって種も作ってくれてありがとう。きれいな花を咲かせてくれてありがとう。きれいなリースにするね。リース作りがんばるよ。

他の児童もあさがおへの愛着を深めたことが感じられる。

単元全体の振り返り

A児の振り返り 種を植えるのをがんばった。水やりができるようになった。夏休みのときにいっぱいお世話をした。リースを作るのをがんばった。

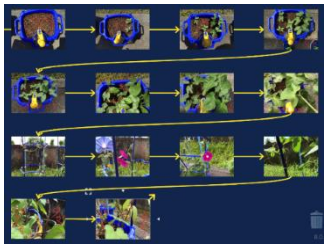
B児の振り返り 種を植えるのをがんばった。毎日水やりをがんばった。種とりをがんばった。あさがおの片付けをがんばった。リース作りをがんばった。

抽出児以外の振り返り 種を上手に植えられた。水やりをがんばった。夏休みのとき，水やりが大変だったけど，夏休みが終わるまで水やりを続けられた。リースを完成させることができた。

単元終末に行った振り返りでは，全員が単元を通してがんばったことを記述することができた。自分自身への気付きを得られた姿である。中でも，単元を通してできるようになったことや継続してできたことを書き表すことができた児童は５名であった。この５名は，自分自身への気付きの質を高めることができた。

② 児童の思いや願いを引き出す問いかけ

たくさん芽が出てきた時（間引きを引き出す場面），つるが伸び始めた時（つるを自覚させる場面）で，意図的に気付いたことを交流させた。



あさがおの観察の際は，タブレットで写真を撮らせた。撮ったものは日付を書き込み，ロイロノートに時系列で整理させた。

成長過程を可視化したことで，成長の様子の変化を視覚的に捉えやすくなった。また，交流場面でも自分のあさがおと友達のあさがおを見比べて，違いや共通点などが比較しやすくなった（つるを自覚させる場面）。

つるを自覚させる場面

T:みんなのあさがおはどのくらい成長してきたかな。写真で見比べてみよう。 C:葉っぱが増えて背も高くなったよ。 A:ぼくは真ん中に新しい葉っぱが出てきたよ。 C:〇〇さんのあさがおは，先が伸びている所があるよ。（ロイロノートの写真を見合って） C:つるだ！真ん中から伸びているよ。 C:Ａさんの葉っぱもつるなんじゃない？ C:確かに。少し伸びて見えるよ。 A:本当だ。ぼくのあさがおの新しい葉っぱはつるなんだ。 T:つるはこのあとどうなるか知っていますか。 C:どんどん伸びてくる。 T:放っておいたらどうなるかな？ C:地面に垂れてきそう。 C:垂れたら水やりするとき踏みそう。 C:棒にぐるぐるになっているのを見たことがあるよ。 T:棒を使うといいことがあるの？ C:棒につるが巻き付いて，地面に垂れなくなる。 T:では，つるが伸びてきたらどうしたいですか。 C:棒を立てたい。 C:早くつるが伸びないかな。 C:家で育てているあさがおでもやってみよう。

友達がつるに気付いたことで，自分の新しい葉っぱもつるだと気付くことができた。個別の気付きを共有する中で，新たな気付きが生まれた。また，つるが伸びたらどうしたいか問いかけることで，棒（支柱）を立てたい，早くつるが伸びてほしいなどという，知識や生活経験と関連付けた思いや願いを引き出すことができた。

間引きを引き出す場面

T:B さんが「あさがおさんが狭そう」と言っていたけど，みんなはどうですか？
C:ぼくも狭そう。広くしてあげたい。
T:どうして広くしてあげたいの？
C:狭いと大きくならないかもしれない。
C:でも抜いちゃだめだよね。
T:どうして抜いちゃダメなの？
C:だって抜いたら枯れちゃう。かわいそう。
T:抜かなかったらこの後どうなるかな？
C:もっと狭くなるからやっぱりかわいそう。
C:場所を移す？
B:場所を移すってことは抜かないとだめだよね。
C:やっぱり抜かなきゃ広くならないよ。抜いてもいいの？
T:実は間引きという方法があります。
C:広くしてあげたいから間引きしたい。
B:大きい花が咲いてほしいから間引きする。

自分の生活経験をあさがおと関連付けた「狭そう」という個別の気付きを，感情を揺さぶる問いかけを行うことで，「かわいそう」というあさがおへの思いを引き出すことができた。また，知識や経験を引き出す問いかけから，「このままではかわいそう」「抜かなきゃ広くならない」などと思いを交流することで，「広くするために間引きしたい」とう願いを引き出すことができた。

その後，実際間引きを行った際は，どのくらいの広さにしてあげるか考えながら，間引きする数を試行錯誤している姿が見られた。また，植えた種が半分ほどしか発芽しなかった児童は，間引きしなくても広いからと間引きはしない選択をする様子も見られた。間引きするかを児童に委ねたことで，間引きに児童の思いや意味をもたせることにつながった。思いや願いを実現させる方法を考えさせることで，気付きの質が高まったと言える。

5　成果

①　あさがおへのメッセージとその価値付け

毎回メッセ―ジを書くことで，「水やりがんばるから早く大きくなってね」「もう少しで花が咲くよ，がんばってね」など，あさがおに寄り添った記述が見られるようになった。また，児童の思いや気付きを価値付けて返却することで，「お世話がんばろう」「成長が楽しみ」といった，あさがおへ深く関わることにつながったと考える。特に A 児は，登校するとすぐに窓からあさがおの様子をチェックするほど，あさがおに主体的にかかわり成長を楽しみにしていた。メッセージの積み重ねと価値付けが，あさがおへの愛着を深めることにつながった。

②　児童の思いや願いを引き出す問いかけ

共有させたい気付きを明確にして意図的に交流場面を設定し，気付きを伝え合う中で，友達がつるに気付いたことから，自分の新しい葉っぱもつるだという新たな気付きを得ることで，気付きの質を高めた姿が見られた。また，児童の感情を揺さぶったり，知識や経験を引き出したり，児童に価値判断を委ねたりする問いかけや問い返しを通して，あさがおへの関わりを主体的に考え，自分の思いや願いを表出させながら，知識や経験とあさがおへの思いや願いを関連付けることで気付きの質を高めることができたと考える。

6　課題

今回は１単元のみの実践となってしまった。改善を加えながら同じ手立てでもう１実践できると，よりよい研究の成果と課題が明らかになるだろう。研究の妥当性を検証するためにも，２実践できるようにしていきたい。また，今回は思考力・判断力・表現力等における気付きの質の高まりに焦点を当てたが，生活科で特に大切にしている自分自身への気付き（その中でも自分のよさや成長，可能性についての気付き）を高めた姿についても検証していきたい。そのために，今回は振り返りを単元終末だけ行ったが，１単位時間内の振り返りを充実させたり，単元を通して教師だけでなく，友達からの価値付けも繰り返し積み重ねたりすることで，自分自身への気付きの質が高まるようにしていきたい。